# 石神第二小学校便り

令和２年度 第 13 号（3 月号）
文責：石神第二小学校長 林　典行

## 成長を確かめ、新しい学年への飛躍を

今年度はコロナ禍の中、イレギュラーな対応で教育活動を進めなければいけないことが多々ありましたが、無事、修了式・卒業証書授与式を滞りなく執り行うことができそうです。保護者の皆様には、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。

さて、この一年間お子さんの成長ぶりはいかがだったでしょうか。身体的な成長だけでなく、１年前の４月を思い起こすと、できるようになったことがたくさんあることに気づくことと思います。

私たちは、ともすれば他の子どもと比較して、「あれができない、これができない」とネガティブな視線でわが子を見てしまいがちです。しかし、子どもたち一人一人は、おとなに向け、一歩一歩確実に成長しています。ずっと赤ちゃんのままの子どもはいません。新しい学年を迎えるにあたり、「こんなことができるようになった」と、子どもと共に確かめてみてほしいと思っております。それが、つぎのステップにつながります。

## あいさつは、人の心に響くもの

本校高学年の児童に対し、心温まるお手紙を頂戴しました。震災以降、人と人との繋がりが希薄化していると言われています。このお手紙を拝読して、児童の行動から、このような世の中だからこそ大切なことを教えられた気がします。皆さんと是非共有したいと思い、掲載させていただきます。

「５・６年の先生方へ」

こんにちは。いつもお世話になっております。１年〇組の〇〇の母です。突然で申し訳ないのですが、称賛してもらいたいお子さんがいらっしゃったので、おたよりさせていただきました。

先日の金曜日のことです。幼稚園児の娘の方が早く帰宅して、時間に余裕ができたので、車ではなく、娘を連れて歩いて息子を迎えにいきました。家までの道のりは、ちびっ子２人を連れてなので、ゆっくり・ゆったりと歩いて帰りました。

徒歩や自転車のお兄さん、お姉さんがどんどん抜いていきます。その中で、１人の男の子がぴたりと立ち止まり、こちらを向いて「さようなら」と声をかけてくれたのです。こちらが挨拶を返したあとは、スタスタ行ってしまったのですが、ピンと伸びた姿勢のかっこいいこと。実は、これが初めてではなく、大木戸に住む祖父母宅の庭にいたところ、通りかかった彼に、その時も元気に挨拶をしてもらいました。背の高さから高学年かなと思ったので、「５・６年の先生方へ」とさせていただきました。

彼にとって、「挨拶する」ということはごく当たり前のことなのかもしれません。しかし、その挨拶のおかげで、気持ちが温かくなったり、感動したりしたおとなたちがいたことを、どうぞお伝えしてください。とても褒めていたと、そのままの心がけでおとなになってほしいと・・・。

～ 原文を一部省略させていただきました。～